

には、国、県に対して充分な補償を求めると同時に、前後策を強力に講じさせる。

三 高浜入の干拓は、霞ヶ浦の水質汚染を救い難いものにすると同時に、自然を破壊するものであり、工事を中止すべきであると考えます。なお、干拓中止の請願が、一時採択されながら、それが途中で継続審議に回されてしまったことは、自民党県政の工業、産業優先の姿勢を露骨にあらわしたものであり、厳しく追及して参ります。

四、県霞ヶ浦水道事務所では、浮遊物を沈澱させる凝集剤のポリ塩化アルミニウム、滅菌剤の塩素、脱臭剤の活性炭などを投入しているが、特に汚染の激しい夏場は大量投入している。その結果、例えば塩素の量は、普通一般の家庭の蛇口で〇・一PPMであるのに、県霞ヶ浦水道事務所の場合、浄水場からの出口では〇・七〜一・〇PPMもの塩素が含まれており、水質を低下させている。土浦市民の健康と生命を守るためにも飲料水の原水のデータ及び薬品等の投入量を公表して市民にPRすることは、県の当然の責務である。県、国百年の大計に立って、水行政を強力に推進すべきである。

霞ヶ浦水質浄化に関する公開質問の

回答を公開するにあたって

茨城県議会議員選挙は去る十五日施行され当地区より三名の議員が選出されました。

土浦の自然を守る会では、選挙に先だち八名の立候補者に対して四項目の質問を提出し、その解答を投票日までにみなさまに公開する予定でしたが、県の選挙管理委員会より、選挙期間中におけるこの種の広報活動は控えてほしいとの申し入れがありましたので、本日まで公開することはできませんでした。

しかしながら、選挙が終ったとはいえ、霞ヶ浦の汚濁がなくなつたわけではありません。当選なされた議員の方々は、ここに公約された浄化対策をぜひとも実行していただかねばなりませんし、私たち市民は、この方々の議会での今後の活動を見守つてゆかねばなりません。

ともあれ、以上の回答をこ一読下さればおわかりの通り、霞ヶ浦の水質汚濁問題が県政にどれほど大きな比重を占めているかについては、今更論を待ちません。

霞ヶ浦という偉大な自然を失なうことは、土浦市民にとつて、かけがいのない心のふるさとを失なうことであ